

メディカルマネジメント・コーチング

経験を経た指導者のプライド

先月は、これから組織の一員として活躍していく若い学生たちに向けてのプライドの話をしましたが、今月はある程度の経験を経た指導者のプライドについて触れてみたいと思います。

「実るほど頭の下がる稲穂かな」学識や徳行が深まると、その人柄や態度が謙虚になることになたえた言葉ですが、みなさんは指導者になったいまも、常にこのような謙虚な気持ちを持ち続けているのでしょうか。

指導者という立場に立つと、つい「何かいいことをいわない」とか「部下がついてくるように厳しく指導しないと」などと思いがちです。しかし、そういった態度はコーチングの視点から見ると逆効果なのです。指導者はすべての面（臨床、教育、研究）で他よりも卓越する必要はないと考えます。ただ、教室のマネジャーとしてそれらを統括し、マネジャーとして卓越するようにしなければなりません。

りません。

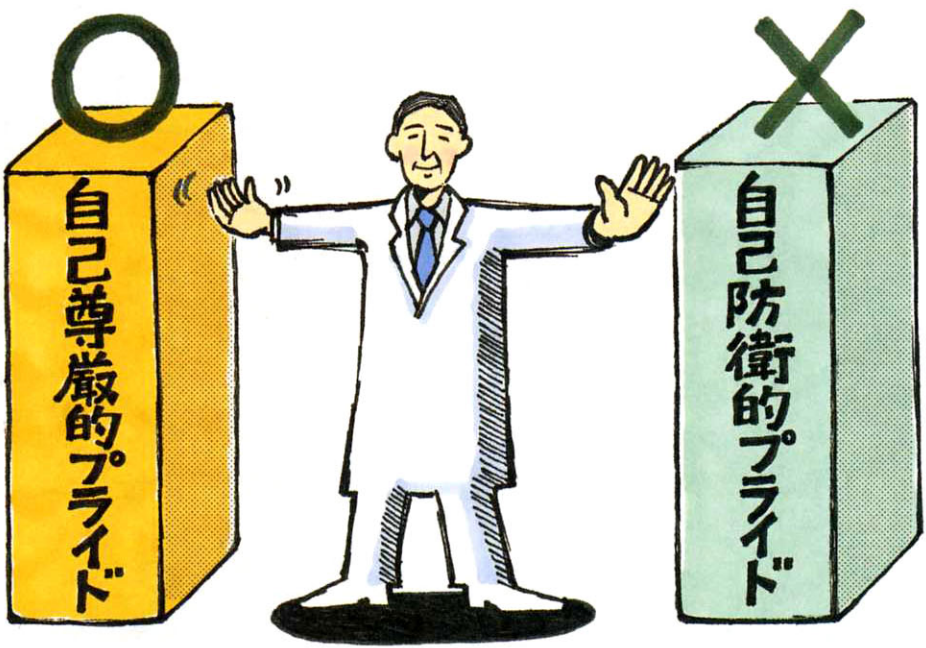
コーチングを進めていくうえで大切なことの1つは、パートナーシップです。これまでのマネジメントでは上下関係をベースにしたものが多かったのですが、パートナーシップといわれても違和感があるかもしれません。部下をパートナーとして見ることは容易ではないでしょうが、人としてお互い同格であるというポジションに立ち接していくことで、コーチングがうまく機能していくのです。

能力のある人は素直に認めよう

私もそうでしたが、若いころは特に、他人のクセや欠点にはあまり目がいきがちなものですね。経験を重ねてきたいまでも、まったく他人の欠点が気にならないわけではありませんが、組織のトップに立つと若いころよりも肯定的にとらえられるようになってきたように思います。人の多様性を認めること、人の長所と短所を肯定的にとらえることは、指導者として必要な資質だと私は考えています。

管理能力に長けた指導者とは

たとえば教室で研究するとき「こいつの力は絶対必要だな」と感じる時があります。向こうも雰囲気、その気持ちを感じとりまします。若いころは教授から仕事を



アンテナを張りめぐらせて情報収集
指導者になると、無意識のうち自分にとって都合のいい意見ばかりを取り入れたい気持ちや、部下の教えを受けるなんて、という

第10回

プライド—指導者編—

和歌山県立医科大学麻酔科学教室教授 畑埜 義雄



指導者だからといってすべての分野で、部下より勝っているというわけではありません。得意分野、不得意分野は誰もが持っているものです。部下のなかには自分よりも医療技術が上手な人、技能に優れた人など、あげたらキリがないほどの、すごい能力の持ち主がいまいます。



イラスト・あおき ゆみこ

任されたり、あてにされたりすると、うれしさを通越して得意気なところが出てくることもあるでしょう。そういった部下に仕事を任せるという行為は、不安があるかもしれない。しかし、部下を信頼して忍耐強く見守るということも、ときには効果的な場合があります。

責任のある仕事を与えることによつて、部下にもリーダーとしての苦労が他人事ではなくなるので、素直に共感できる気持ちが出てきます。そしてリーダーとしてのマネジメントの大変さを認識したときに、指導者に対して尊敬の念を持って接してきてくれるようになります。

医療技術が優れているからといって、指導者になれるとは限りません。指導者になるためには、それなりの技術、経験にプラスしてその人の人柄やコミュニケーション能力、そして部下にビジョンを示す力が必要とされます。管理能力に長けた指導者になるためには、すべてのバランスがうまくとれていることが重要なのです。

プライドも出てくることでしよう。しかし、指導者はチームのレベルアップの要となる必要があるのです。自己防衛的な小さなプライドは捨て、部下や同僚たちから得た最新情報や成功事例を活用することが、重要なポイントになるのではないのでしょうか。

部下に求める行動は自らが示す、というの大切なことです。口だけでなく自分の身をもって行動で示してくれる指導者を、部下は好むものです。「能力がある人を素直に認める」ことができる指導者を見ることができ、それがチームのレベルアップにつながるのです。小さなプライドを捨て、大きなプライドを持てるように指導していくことが肝心です。

また、教える側も教わる側も、常に情報を得ようとする姿勢が必要で、個人の力などだけが知れています。それなのに指導者が「自分は何でも知っている」という姿勢を打ち出せば、部下は何も

素直に認めるように心がけています。たとえばある技術がうまいスタッフがいいたら「お前、すごいなあ。アレどないしてやってんねん？」とか「コツを教えてください」といった感じでアプローチしていきます。

自己防衛的でなく尊敬としての「医師としてのプライド」「人としてのプライド」を常に高く保ち続けるためには、自分の周りの人から始まり、日本の、また世界の時々刻々変化する情報を正しいアンテナを張りめぐらせてキャッチすることが大切なのです。

今月の「プライド—指導者編—」スキル
・自己防衛的プライドよりも自己尊厳的プライドアップ
・指導者はチームのレベルアップの要